	ノハク本作用和	
0	ナンバリングコード	MEIP-CAR101
1	科目名 英語科目名	キャリアデザイン I Career Planning I
2	必修/選択 単位 開講時期 担当者	(選択 1 単位) 1年前期 学生部長、勝谷信一郎*、西 雄一*
3	授業テーマ・内容	「キャリアデザイン」とは、自分自身の生き方や働き方を自主的かつ主体的に構想し、実現していくことをいう。大学生活において、自分の経験や能力を再認識して、自己の理解を深め、自身が望む将来像を描くと共に、社会で求められるコミュニケーション力や課題発見・解決力などの能力を養成することが重要である。この「キャリアデザイン I 」では、本学での学生生活の目的や目標を明確にすることで、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造などについて知り、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動がとれるようになることを目的とする。
4	学習成果	学生自身が、本学での学生生活の目的や目標を明確化し、充実した学生生活を計画的に送ることができる。 将来の自分自身のキャリアを考えた選択行動をとることができる。 学生参加型(ワーク重視)の授業を展開していくことで、社会人として必要なスキルである「書く」・「聞く」・「話す」力を身につけることができる。 社会人として求められる最低限の一般常識やマナーを身につけることができる。 自らの「将来像」を意識した学生生活を送ることができる。

24470 - b. m	評価尺度4	評価尺度3	評価尺度2	評価尺度1	評価尺度0
学習成果	期待している以上	十分に満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	努力を要する
学生自身が、		自身の学生生活の目的	自身の学生生活の目的	自身の学生生活の目的	自身の学生生活の目的
本学での学生		や目標を具体的に明確	や目標を大きな枠では	や目標についてある程	や目標を明確化できて
生活の目的や		化できている。	明確化できている。	度方向を見出している。	いない。
目標を明確化					
できる。					
将来の自分自		将来の自分自身のキャ	将来の自分自身のキャ	将来の自分自身のキャ	将来の自分自身のキャ
身のキャリアを		リア像が明確に定まっ	リア像が定まっており、	リア像がある程度定ま	リア像が定まらず、適切
考えた選択行		ており、それを踏まえた	ある程度それらを踏ま	り、重要な選択につい	な選択行動をとることが
動をとることが		選択行動をとることがで	えた選択行動をとること	ては行動をとることがで	できない。
できる。		きる。	ができる。	きる。	
自らの「将来		「将来像」が明確で、そ	「将来像」が定まり、普段	「将来像」がある程度定	「将来像」があいまいで
像」を意識した		れを意識した学生生活	からある程度意識した	まり、重要なタイミングで	意識した学生生活を送
学生生活を送		を送ることができてい	学生生活を送ることがで	はそれを意識した学生	ることができていない。
ることができ		る。	きている。	生活を送ることができて	
る。				いる。	
社会人として		社会人として必要な「書	概ね必要な十分に社会	社会人として必要な「書	社会人として必要なスキ
必要なスキル		く」・「聞く」・「話す」力を	人としての「書く」・「聞	く」・「聞く」・「話す」力に	ルを身につけることが
である「書く」・		きちんと身につけてい	く」・「話す」力を身につ	関して物足りない面は	できていない。
「聞く」・「話す」		る。	けている。	あるが、対応可能な力	
力を身につけ				を身につけている。	
ることができ					
る。					
社会人として		社会人として求められる	社会人として求められる	一般常識やマナーが十	最低限の一般常識やマ
求められる最		最低限以上の一般常識	最低限の一般常識やマ	分に身についたとは言	ナーを身につけること
低限の一般常		やマナーを身につけて	ナーを身につけてい	えないが、失礼のない	ができていない。
識やマナーを		いる。	る。	ように行動できる。	
身につけること					
ができる。					

	ノハク本作用和	
0	ナンバリングコード	MEIP-CAR201
1	科目名 英語科目名	キャリアデザイン II Career Planning II
2	必修/選択 単位 開講時期 担当者	(選択 1 単位) 1 年後期 学生部長、勝谷信一郎*、西 雄一*
3	授業テーマ・内容	自分自身の今後のキャリアや自身が望む将来像を自らで描き、その実現に向けて行動をしていくためには、まずは現状の自分の経験や能力を再認識して、自己の理解を深めることが必要不可欠である。また、社会の中で生きていくには、他者との関わりを避けて通ることは不可能であり、他者に自分自身を理解してもらうには、自分自身や自らの考えを他者に正確に伝える能力が必要となる。この「キャリアデザインII」では、将来の職業を念頭においたキャリア形成に重点を置くこととし、自分自身を深く理解するとともに、自らを他者に理解して貰える効果的な表現方法をより実践的な演習を通じて学ぶことにする。
4	学習成果	自分自身を客観的に見ることができる視点を養成するとともに、自身のこれまでの経験や現在有する能力などの再認識を行い、自己の理解を深めることができる。より実践的な演習を通じて、現状自身に不足している力を知るとともに、「仕事=社会で生きる」ことの本質を身をもって学ぶことができる。自らを他者に理解して貰えるコミュニケーション能力も身につけることができる。 最終的には、自分自身の今後のキャリアについて、理論的に考えることができるようになり、自身のキャリアプランを作成して、実現に向けて行動することができる。

*******	評価尺度4	評価尺度3	評価尺度2	評価尺度1	評価尺度 0
学習成果	期待している以上	十分に満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	努力を要する
自分自身を客		自分自身を客観的に見	概ね自分自身を客観的	ある程度自分自身を客	自分自身を客観的に見
観的に見ること		ることができ、自身の経	に見ることができ、自身	観的に見ることができ、	ることができているとは
ができる視点		験や能力などの再認識	の経験や能力などの再	自身の経験や能力など	いえず、自己の理解が
を養成するとと		を行え、自己の深い理	認識を行え、自己の理	の再認識を行え、自己	深まっていない。
もに、自身のこ		解を持っている。	解を持っている。	の理解が進んできてい	
れまでの経験				る。	
や現在有する					
能力などの再					
認識を行い、					
自己の理解を					
深めることがで					
きる。					
現状自身に不		自身に不足している力	自身に不足している力	自身に不足している力	現状自身に不足してい
足している力		を知るとともに、「仕事=	を知るとともに、「仕事=	を知るとともに、「仕事=	る力や、社会で生きるこ
を知るととも		社会で生きる」ことの本	社会で生きる」ことの本	社会で生きる」ことの本	との本質について理解
に、「仕事=社		質を身をもって学ぶこと	質をある程度学ぶことが	質を考えつつある。	が不足している。
会で生きる」こ		ができている。	できている。		
との本質を身					
をもって学ぶこ					
とができる。					
自らを他者に		様々な状況で自らを他	概ね自らを他者に理解	つたない面はあっても、	自らを他者に理解して
理解して貰え		者に理解して貰えるコミ	して貰えるコミュニケー	自らを他者に理解して	貰えるコミュニケーショ
るコミュニケー		ュニケーション能力を身	ション能力も身につける	貰えるコミュニケーショ	ン能力が身についてな
ション能力を身		につけることができてい	ことができている。	ン能力も身につけること	V %
につけることが		る。		ができている。	
できる。					
自分自身の今		自分自身の今後のキャ	自分自身の今後のキャ	自分自身の今後のキャ	自分自身の今後のキャ
後のキャリアに		リアについて、理論的	リアについて、理論的	リアについて、理論的	リアについて、理論的
ついて、理論		に考えることができ、自	に考えることができ、自	に考えることができ、自	に考えることができてお
的に考えること		身のキャリアプランを作	身のキャリアプランを作	身のキャリアプランを作	らず、きちんとしたキャリ
ができるように		成して、実現に向けて	成して、実現に向けて	成して、実現に向けて	アプランを作成できて
なり、自身のキ		行動できている。	行動できている。	行動できている。	いない。
ャリアプランを					
作成して、実					
現に向けて行					
動することがで					
きる。					

	ノハヘ本や旧和	
0	ナンバリングコード	MEIP-CAR102
1	科目名 英語科目名	企業研修 I Internship I
2	必修/選択 単位 開講時期 担当者	(選択1単位)1 年前期または1年後期の定められた期間 学生部長、学科長
3	授業テーマ・内容	 ・ 就職に対する意識を高める。 ・ 成長のための課題を認識し、大学での学修の深化や将来のキャリア選択を促していく。 ・ 社会人としての一般常識、マナー、コミュニケーション力を身につける。 ・ 実務経験をとおして、実際の仕事や職場を知り、自己の職業適性や職業選択について考える契機とする。 ・ 就職活動の方向性と方法についての基礎的な理解を得るように努める。 ・ 就職後の職業生活に対する適応力を高めることができるようにする。
4	学習成果	企業とはどんなところなのか。また、実務経験を伴う研修を通して学生と社会人の違い(一般常識、マナー、コミュニケーション力)を認識し、自主的に考え、行動できる能力を身につけ、今後の就職活動に対する意識を向上させる。なお、研修中は、研修先の社員・職員や、他の受講学生との協同作業を行うこともあり、研修先の社員・職員の働きぶりを見て、大学卒業後も常に新しい知識を継続的に獲得していかなければならないことを体感する。

学習成果	評価尺度4	評価尺度3	評価尺度2	評価尺度1	評価尺度 0
	期待している以上	十分に満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	努力を要する
企業とはどん		企業理解や社会人との	企業理解や社会人との	企業理解や社会人との	事前研修及び研修の参
なところなの		違いを認識し、自主的	違いを認識し、自主的	違いを認識し、自主的	加状況が不十分で能力
か、学生と社会		に考え、行動できる能	に考え、行動できる能	に考え、行動できる能	を身につけているとは
人の違い(一		力を身につけた。	力の必要性を理解して	力の必要性を理解し	認められない。
般常識、マナ			行動してみた。	た。	
ー、コミュニケ					
ーション力)を					
認識し、自主					
的に考え、行					
動できる能力					
を身につけ					
る。					
研修先で大学		卒業後も常に新しい知	卒業後も常に新しい知	卒業後も常に新しい知	事前研修及び研修の参
卒業後も常に		識を継続的に獲得して	識を継続的に獲得して	識を継続的に獲得して	加状況が不十分で能力
新しい知識を		いかなければならない	いかなければならない	いかなければならない	を身につけているとは
継続的に獲得		ことを体感し、キャリアを	ことを体感し、今後につ	ことを体感した。	認められない。
していかなけ		意識して行動することが	いて意識を高めることが		
ればならない		できる。	できた。		
ことを体感す					
る。					

	ノハヘ本や旧和	
0	ナンバリングコード	MEIP-CAR103
1	科目名 英語科目名	企業研修 II Internship II
2	必修/選択 単位 開講時期 担当者	(選択1単位)1年前期または1年後期の定められた期間 学生部長、学科長
3	授業テーマ・内容	 ・ 就職に対する意識を高める。 ・ 成長のための課題を認識し、大学での学修の深化や将来のキャリア選択を促していく。 ・ 社会人としての一般常識、マナー、コミュニケーション力を身につける。 ・ 実務経験をとおして、実際の仕事や職場を知り、自己の職業適性や職業選択について考える契機とする。 ・ 就職活動の方向性と方法についての基礎的な理解を得るように努める。 ・ 就職後の職業生活に対する適応力を高めることができるようにする。
4	学習成果	企業とはどんなところなのか。また、実務経験を伴う研修を通して学生と社会人の違い(一般常識、マナー、コミュニケーション力)を認識し、自主的に考え、行動できる能力を身につけ、今後の就職活動に対する意識を向上させる。なお、研修中は、研修先の社員・職員や、他の受講学生との協同作業を行うこともあり、研修先の社員・職員の働きぶりを見て、大学卒業後も常に新しい知識を継続的に獲得していかなければならないことを体感する。

444 W 15 W.	評価尺度4	評価尺度3	評価尺度2	評価尺度1	評価尺度 0
学習成果	期待している以上	十分に満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	努力を要する
企業とはどん		企業理解や社会人との	企業理解や社会人との	企業理解や社会人との	事前研修及び研修の参
なところなの		違いを認識し、自主的	違いを認識し、自主的	違いを認識し、自主的	加状況が不十分で能力
か、学生と社会		に考え、行動できる能	に考え、行動できる能	に考え、行動できる能	を身につけているとは
人の違い(一		力を身につけた。	力の必要性を理解して	力の必要性を理解し	認められない。
般常識、マナ			行動してみた。	た。	
ー、コミュニケ					
ーション力)を					
認識し、自主					
的に考え、行					
動できる能力					
を身につけ					
る。					
研修先で大学		卒業後も常に新しい知	卒業後も常に新しい知	卒業後も常に新しい知	事前研修及び研修の参
卒業後も常に		識を継続的に獲得して	識を継続的に獲得して	識を継続的に獲得して	加状況が不十分で能力
新しい知識を		いかなければならない	いかなければならない	いかなければならない	を身につけているとは
継続的に獲得		ことを体感し、キャリアを	ことを体感し、今後につ	ことを体感した。	認められない。
していかなけ		意識して行動することが	いて意識を高めることが		
ればならない		できる。	できた。		
ことを体感す					
る。					